

商学部 秋澤光助教授

演習Ⅰ, Ⅱ (3, 4年次)

「アントレプレナーシップの探求」

(火曜3限)

歯切れ良く

「きよようのレジユメのポイント
は？」

発表の担当者に先生が声をかける。

「じゃ、始めてください」

テキパキ、歯切れのよさとテンポのよさ。たぶん、「モタモタ」や「ぐずぐず」が嫌いな先生にちがいない。スピードなのよ、ビジネスも学問も、

というように。

人気のゼミである。でも、アントレプレナーシップ？ 何よそれ、という人もいらっしやるだろうから、説明しておけば、Entrepreneurship「企業家精神」、または「起業家精神」と訳す。ベンチャー・ビジネスの世界などと関係する言葉なんだろうな、くらいの理解しか私にはないけれど。

《商学部のサイトから「秋澤研究室」を開く。ゼミ紹介によると、ア

こまで変わるのでしょうか」と書かれている》

カラーのレジユメ

授業の始まる前にレジユメが配られた。この日のレジユメ作成者は片岡聡さんとブイタン・ビンさん（ベトナム人留学生）のふたり。テキストのサマリーに関連資料を付けたものだが、これがカラー・コピーなのである。それも12ページにわたる大作。恥ずかしながら、こんな立派な

テキパキ、軽快に 人気講座の元気の素は？

ントレプレナーシップは、英語だが「世界共通の概念」で、へ社会をより良く変えるような新しいビジネスを創り出すことです。たとえば、宅

急便ができて、生活はどのように変わってきたでしょうか。Eコマースにより、これから私たちの生活はど

レジユメを、わが学生生活では見たことがない。すごいな、とただ感心する私であった。

《本ゼミの前期は、MBA速習コースというテキストを使い、ビジネスプラン実務の基礎力を養成する。加えて1人1企業を担当し、テキスト

の内容に関連させた調査発表も組まれている》

ビンさんがレジユメを見ながら説明を始めた。レジユメは「事業形態」「どこから資金を調達するか」「期待できる事業分野」「事業計画」の項目から成っている。起業家の特性及び起業家に必要な諸項目、いかにも実践的な内容構成だ。

発表を聞きながら、ゼミ生の多くが熱心にメモをとり、1項目終わるごとに、相互の議論が交わされた。要所要所で秋澤先生の意見が加わる。ゼミ生の議論に、効果的なアクセントをつけるように。

「自然人」って何？

「事業形態」関連の「日本の企業法制比較」の資料図で、「株式会社」「有限会社」などの列に、

「自然人」

という言葉があった。私は漫然として気付かなかつたのだが、ゼミ生のひとりが「自然人の意味は何です

か」とたずねた。すると、秋澤先生は質問の矢を私に向けられたのだった。「じゃあ、これはあなたに聞こうかな」

はじめに、思いっきり、

「法学部の」

と自己紹介してしまったのである。でもきょうは「取材」にきている

反省することしきり。《企業(2社)の現場に17年間。秋澤先生が中大にこられる前の経歴である。「ユニークな人材を集め育てたい」とゼミの取り組みも「産学協同」の先端にある。大学院では後期「ベンチャービジネス研究」を講ずる》

のだから、まさか質問が飛んでくるとは思ってもいなかった。ゼミ生全員の視線を感じつつしどろもどろ状態。見かねて、先生がフォローくださった。「では、これはあなたへの宿題、ということにしましょう」

「起業」には商業、経済だけではなく、法律の知識もからんでくる。もつとしっかり勉強せねば……



秋澤先生（中央）を囲んで活発な授業風景

日米のベンチャー企業のビジネススタイル、ベンチャーキャピタルの比較についての議論も活発だった。

ビジネススタイルには、短期間で一気に市場シェア獲得を目指す「弾丸型」

と、徐々に規模拡大を図る「ジェット機型」

があるそうだ。そして、日本の90%までが「ジェット機型」だという。

ベンチャー経験生かして

日本でベンチャー企業がなかなか増えないのは、

「企業姿勢に問題があるのか」「ベンチャー企業に乗り気でない投資側の問題か」

「そもそも日本の環境的なものか」「日本経済の本質的な大テーマをめぐる、様々な意見が出された。」

ビンさんから片岡さんへ代わり、事業計画の作り方や起業家の特性

についての発表がつづいた。日経ビジネスからとってきた「理想のリー

ダーや」リーダーに求められる姿勢」のアンケートも、起業というものをより現実的に考えさせてくれる。片岡さん自身、起業家の経験がある。挫折体験をも踏まえた説明だから、わかりやすく、説得力に富んでたいへん興味深く聞かせてもらった。

先生がゼミ生のインスピレーションを刺激し、ゼミ生もそれに呼応していく。起業家の卵たちに私も鈍った脳を刺激された1時間半だった。

ゼミ生のひとりには、「始まったばかりですが、刺激的で楽しいですよ」と語る。先生も「盛り上がりつつありますよ」と手応え十分のようだ。

そうそう、宿題のこと。「自然人」とは「法人」に対する概念でした。調べたことをもう少し詳しく書いて、「宿題やりました」とメールすると、先生からも、

「よくわかりましたよ」

と、ていねいな励ましの返信をいただいた。(学生記者 野倉早奈恵)